

### ひよこから卵までの一貫生産 健康な鶏が産んだ「おいしい卵」で 幸せを食卓に届けたい

今回訪問したのは、豊かな緑と美しい水に恵まれた山口市徳地の株式会社出雲ファームです。静かな環境の中で鶏を飼育し、卵を山口県内はもとより関西へも出荷しています。同社をリードするのは、中尾哲也社長。鶏の命と真摯に向き合い、安全でおいしい卵にこだわっています。将来に向けて人材育成にも力を入れる中尾社長にお話を伺いました。



本社は卵の選別・パック詰めを行うGPセンターと同じ建物にある

#### 地元農家が営む養鶏団地を 根気強く再生する

出雲ファームのルーツは、昭和50年代ごろに作られた養鶏団地「出雲鶏卵組合」です。山の中に造成された養鶏場で、十数軒の養鶏農家が各自の鶏舎を管理し、運営していました。“出雲”という名称は、地元の地名に由来しています。平成に入って、この養鶏団地を経営効率化するため、広島企業が経営に参画。その際、現場の責任者として私が派遣されることになりました。

私は大阪府出身で、学生時代は畜産を専攻。島根大学で大学院までお世話になりました。恩師の紹介で、食肉用のブロイラーを育てる養鶏場に数年間勤務。その後、大阪で別の仕事をしていた時に再度、恩師から声を掛けられ、出雲ファームに就職することに。現場に入る前に、2年ほど鶏卵専門の養鶏場で修業させていただきました。ブロイラーと鶏卵の仕事は全くの別物。当初は勝手が分からず、本当に苦労しました。熟練のパート従業員さんを見習い、集卵や給餌など一通りの仕事

と根気強さを身に付けさせてもらいました。

「いざ現場改革を」と出雲ファームに赴任する時、本社から「鶏卵の月産を350トンから450トンへ拡大すること」という目標を言い渡されました。まだ30代だった私を待っていたのは、ベテラン養鶏農家の皆さん。私がさまざまなアイデアを提案しても、「われらは鶏と話ができる。若造に何が分かるのか」と聞いてもらえず、何度も衝突しました。そんな中でもできることは何でもやってみようと、鶏舎の室温や風向きを細かく調査し、飼料の量と産卵量から効率がよい条件を洗い出して施設の改善に着手。本社から資金を調達できなかったため、金づちを



山間部にある鶏舎は、段階的に建て替えを進めています

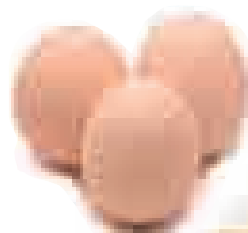
ふるってDIYをする毎日でした。少しずつ対策が功を奏し、450トンを達成。ベテランの皆さんとも徐々に折り合いが付き、また新たな従業員も入社し、さらに生産効率を改善。株式会社として再出発する平成24年までに月産500トンを突破し、日本でもトップクラスの生産性を実現するまでになりました。

## 独自の生産管理や飼料で 価値ある卵を生産

出雲ファームの特徴の一つが、ひよこの育成から卵のパッケージまでの一貫生産システムを採用していることです。まずは育成舎に、信頼できる種鶏場からひよこを導入します。年間25万羽を、ワクチンの使用時期等を見極め、独自のプログラムで元気に育てます。次は成鶏舎に鶏を移し、卵を産み始めるのは生後130日ごろから。日々の徹底した巡回で鶏の様子を観察します。鶏舎ごとの卵の個数や重量のデータを分析し、栄養管理や設備管理に反映するのは出雲ファームならではの手法です。一般的に夏は産卵量が下がるといわれますが、弊社では飼育技術を磨くことで、年間を通じて安定した出荷量を確保しています。集めた卵はGPセンターに運び、人の手が触れることなく洗浄、選別し、パック詰めします。殻のヒビや血卵、汚れがある卵は厳しく高性能の検知器で選別し、出荷することはありません。一般消費者向けの卵は山口県内や関西に出荷。一部はマヨネーズなどの原料として食品工場へ納品しています。

衛生面では、農場とGPセンターでHACCP方式を導入し、対策を行っています。平成26年に新GPセンターを鶏舎とは別の場所に移設。鶏舎周辺への出入りを規制し、鳥インフルエンザなどの対策を厳重に行っています。

私たちは、鶏の健康状態を良好に保つことで、「卵殻がしっかりしていること」と「ハウユニット(卵の質量と卵を割った時の白身の高さで決まる)が高いこと」という2つの「よい卵の品質基準」を満たしています。また出雲ファームで育てている「ソニア」は、ハウユニットが高く、珍しいピンクの殻の卵を産む鶏種。飼育が難しいとい



希少性のある  
ピンク色の殻をした卵を生産

卵かけご飯にすると、おいしさが際立ちます



われる「ソニア」ですが、徹底した管理を行い「よい卵」づくりに邁進しています。

地産地消に貢献するため、山口県産の飼料用米をオリジナルの飼料に配合。飼料の氨基酸レベルなどをきめ細かく調整し、鶏の健康や卵の味を保っています。また、地下100mからくみ上げた地下水や、緑豊かな環境が数値には表れない「おいしさ」につながっています。私たちが目指すのは、高価な卵ではなく、値段以上の価値がある卵。価格競争に巻き込まれることなく、安定した価格で販売できていることが、何よりの評価だと思います。

## 「ワクモの悲劇」を教訓に 命を預かる重責を実感

畜産業とは、安全な動物性タンパク質を社会に届ける仕事です。食品を扱う以上「安全」が最重要課題であることは当然。また、企業として継続していくために、収益を上げる経済性も欠かすことはできません。しかし、何より忘れてはならないのは、鶏の命を預かる仕事であるということ。また、私たちは卵を食べる消費者の命も預かっています。その重責を実感させられた出来事が「ワクモの悲劇」です。

ワクモというのは鳥類の寄生虫の一種で、ワクモに吸血された鶏は貧血状態に陥り、死に至る事もあります。7、8年前、鶏舎に突然ワクモが大量発生しました。従業員が毎朝目にするのは、バタバタと倒れている50羽もの



検品は厳しい目で

鶏。とさかが真っ白になるほど血を吸われ、死んでしまった鶏を回収することに、皆、胸を痛めました。通常業務とワクモ対策に追われ、処理に手が回らなくなった鶏糞は山積み。連日繰り返されるワクモとの闘いに疲れ、ある時から従業員は心を失いました。鶏の死体を「モノ」として片付けてしまうほど、全員が追いつめられていたのです。

ワクモとの苦しい闘いは約1年で終結。現在では独自の方法を編み出し、殺虫剤に頼らないワクモ防止策に成功しています。しかし、私たちは「ワクモの悲劇」を忘れてはなりません。「二度と、人間らしさを失ってはいけない」「鶏たちの命と、卵を食べる人の命を預かっているという自覚を持つ」…当時を知る従業員はもちろん、これから入社してくる従業員にも、教訓として「ワクモの悲劇」を語り継いでいきます。

## 従業員の基礎学力アップで感度を高め「変える力」を

弊社の従業員は、近隣地域からの中途採用の方がほとんどです。この春には、2人の高卒新入社員を迎えました。あと3、4年で新型鶏舎への建て替えが完了することから、今後の弊社の成長には、人材育成で「現状を変える力」を養うことが欠かせません。まず手始めに、中学校レベルの数学や理科、社会などの基礎学力の復習に着手。基礎学力が「アンテナの感度」を高め、テレビや新聞、ネットなどに流れるたくさんの情報の中から、有用なアイデアを選び出す力になるはず。そこから、「こんなことがやってみたい」という発想が生まれ、

「変える力」へとつながっていくと思います。

GPセンターの隣には、直売所と飲食コーナーを完備した「徳地と<sup>たま</sup>魂の里」を開設しています。卵かけご飯に合う専用のしょうゆを開発したり、小麦アレルギーの方にも食べていただけるグルテンフリーのパウムクーヘンを販売したりと、従業員の「変える力」を発揮するステージになっています。また、10日ごとに行っている生産会議でも、スタッフが意見を出し合い、よりよい飼育環境の実現を目指しています。

「1日2個、卵を食べましょう」という「たまごニコニコ大作戦!!」を業界団体の日本卵業協会が提言中です。最新の研究で「コレステロール上昇を抑えるため、卵は1日1個まで」という定説は根拠がないと分かったため、栄養豊富な卵をもっと食べていただきたいと思います。「健康な鶏が産んだおいしい卵で、皆さんを笑顔にしたい」…そんな思いで、私たち出雲ファームはこれからも挑戦を続けていきます。



直売所「徳地と魂の里」では、卵やお菓子を販売



米粉を利用したパウムクーヘンが話題に

## 社長に お聞きしました!

### 私の朝時間

5時45分に起床、6時ごろから新聞を読みながら朝食をとります。卵かけご飯や納豆、みそ汁が定番メニューで、卵は欠かしません。6時半から30分はストレッチ。20年ほど前に腰のヘルニアを患って以来、習慣化しています。現在62歳ですが、ストレッチの成果か、かなり身体は軟らかいと思います。会社に出勤するのは7時40分ごろ。コーヒーを一杯飲んで、本格的に仕事に取り掛かります。

### 好きな言葉

「A rolling stone gathers no moss (転がり続ける石に苔は生えない)」です。石は自分自身では転がりませんが、川の流れるが転がす力になります。人間にとっての川は、環境や情報、経験値など。流れの中で、しっかりアンテナを張って、転がり続けて常に挑戦し続けたいと思います。ローリングストーンズに加え、吉田拓郎さんの「ローリング30」という曲の「動けない花になるな、転がる石になれ」という歌詞にも影響を受けました。

### 私のお気に入り

若い頃はメッセージ性が強い音楽「関西フォーク」にはまっていました。当時から、ギターはいつも身近にありますね。一人静かに爪弾くこともあれば、バンドに参加してライブに出ることもあります。自宅では、ウイスキーをたしなむ時間が至福。ビールや日本酒と違い、アテが要らない味わい深さがウイスキーのいいところ。チビチビと飲みながらギターを弾いたり、仕事のことを考えたり…。懸案事項を解決するいいアイデアがひらめくこともあり、最高の相棒になっています。



代表取締役

## 中尾 哲也

### 概要

- <所在地> 山口市徳地堀940番地
- <設立> 平成24年
- <資本金> 800万円
- <従業員数> 約60名
- <事業内容> 鶏卵の生産、加工、販売及び発酵有機肥料の販売
- <設備> 育成舎／ウインドレス育成舎5棟 収容羽数80,000羽  
成鶏舎／2団地ウインドレス鶏舎24棟  
収容羽数440,000羽  
GPセンター／ナベル社製4万卵パッケージライン  
(汚卵、ヒビ卵、異常卵検知器)

### 企業沿革

- 昭和50年代 地元鶏卵農家による出雲鶏卵組合が創業
- 平成 4年 有限会社出雲ファーム設立
- 平成 24年 株式会社出雲ファーム設立
- 平成 26年 GPセンターや鶏舎を整備。直売所「徳地とり魂の里」開設



出雲ファームのロゴマーク